

The 12th International conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS2009) November 15-18, 2009, Funabori, Tokyo

2009年11月15日から18日までの4日間、電気学会産業応用部門の主催、KIEE (The Korean Institute of Electrical Engineers)およびCES (China Electrotechnical Society)の共催で、International conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS2009)が東京・船堀の船堀タワーホールにて開催された。ICEMSは、パワーエレクトロニクスを含む電気機器とそのシステムに関する国際会議であり、日本(電気学会)、中国(CES)、および韓国(KIEE)の電気系学会が持ち回りで毎年実施している。前回の日本での開催は2006年に長崎であった。今回の参加者数は全29カ国、407名を数え、内訳は日本からの参加者が200名と最も多く、続いて中国97名、韓国45名と日中韓の3カ国からの参加者が大勢を占めていた。それ以外では、台湾(8名)、タイ(7名)、ドイツ(7名)から比較的多くの参加があった。

15日(日)はWelcome Receptionが開催され、16日(月)のOpening ceremonyから18日(水)の午前中のClosing ceremonyまでテクニカルセッションが行なわれた。Opening ceremonyとClosing ceremonyでは、今回の実行委員長である東京電機大学の西方正司教授のスピーチが行われた。また、各日の最初のセッションはInvited speechとなっており、17日(火)には、名古屋工業大学学長松井信行教授による”Design and Developments of Applications Specific Electric Motors”と題した講演が行なわれた。一般セッションでは、永久磁石同期電動機(PMSM)とその制御に関するものが多く、全31オーラルセッション中、9セッションがPMSM関連であり、風力発電用PMSMのセッション2件も加えると、実にオーラルセッションの1/3がPMSM関連という状況であった。この他、6セッションが電力変換に関わるもの、5セッションが誘導電動機(IM)とその制御に関するものであった。また、風力発電や太陽光発電等、自然エネルギー関連のセッションも設けられた。ポスターセッションは毎日、午後の最初に設定されていた。

発表の全投稿数は723件あり、そのうち605件が採択されている。採択数を国別で見ると、中国の283件、日本の133件、韓国の54件とこの3カ国が大勢を占めている。分野別ではPMSM関連が137件と多く、続いて電力変換関係が94件、IM関連が65件となっており、回転機にとどまらずパワーエレクトロニクス関連の発表も多いことや、他の会議では最近減少しつつある誘導電動機に関する発表が多く見られたことが特徴的であった。



写真 バンケット会場

バンケットは、17日(火)の夜にセッション会場と同じ船堀タワーホールのバンケットルーム(写真参照)を借り切って行なわれた。こちらの参加者は約400人と大規模なパーティとなった。バンケットではこの会議の名誉委員長で産業応用部門長の東京大学堀洋一教授によるスピーチが行われた他、ウイスコンシン大学のProf. Bob Lorenzのスピーチ等も行われた。また、アトラクションとして、津軽三味線の演奏が披露され、海外からの参加者のみならず日本からの参加者もその勇壮かつ繊細な音色に聞き入った。

セッション時間帯には、専門家による呈茶会が開かれ、奥深い茶道の一端に触れる機会も提供された。またクロージングセッションでは5名の若手研究者・エンジニアにYoung Engineer Poster Presentation Awardが送られた。テクニカルセッション終了後の19日(木)には、一日かけてさいたま市にある鉄道博物館を訪れるテクニカルツアーが行なわれた。

ICEMSは今回で12回目を数え着実にその歴史を重ねており、東アジアの電気関係学会が中心となった電気機器・パワーエレクトロニクス分野の会議として、IPECやPCCと並び定着してきた感がある。前回の長崎と今回の東京での開催を経て、日本の関係者の間にもその存在が浸透してきたと考えられる。一方で、No Show Paperへの対応などの課題も抱えており、今後の解決が期待される。次回ICEMS2010は、2010年10月に韓国仁川で開催予定である。アブストラクトの締め切りは、2010年2月28日となっている。

近藤 圭一郎 (千葉大学)
(平成22年1月12日受付)